

1期

2021年度 支援対象者による活動報告



Wim.sakura (ウィム サクラ)

株式会社Plusbase [創業者]

<https://nursebe.jp/>

▶ プロフィール

「日本の進んだ医療を世界に」という思いで看護師になるも、心身を崩す挫折を経験。その後、心療内科にて働く人々の心のサポートを行う中で、日本の“働く人の心を守る仕組み”(EAP)に疑問を持つ。まずは、「いのちを守る人々」を守るべくPlusbase inc.を創業。Z世代看護職向けメンタルサポートサービスの「ナースビー」などの開発に従事。

▶ 活動支援金の活用状況について

Z世代看護職向けメンタルサポートサービスの「ナースビー」などの開発に活用しました。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

女性が9割の看護業界においても、働く女性のための様々な仕組みづくりが非常に重要です。特に、心と身体、社会的繋がりにおけるサポートを様々な企業の皆様と連携をとり基盤を作っていきたいです。



齋藤 明日美 (さいとう あすみ)

株式会社コピー (元NPO法人Waffle)

[AIフェアネスリード]

<https://waffle-waffle.org/>

▶ プロフィール

1990年東京都生まれ。アリゾナ大学修士修了。データサイエンティストとして外資系IT企業・AIスタートアップを経て、NPO法人Waffle共同創業者。現在株式会社コピーにてAIフェアネスリード。Forbes JAPAN 30Under30。著書に『わたし×IT=最強説 女子&ジェンダーマイノリティがITで活躍するための手引書』。

▶ 活動支援金の活用状況について

活動支援金は2021年にNPO法人Waffleにて提供された女子およびジェンダーマイノリティ対象のIT教育プログラムの一部として活用しました。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

NPO法人Waffleの立場を退き、Waffleにて培った日本社会における理系女子教育のベストプラクティスを広めると同時に、技術と教育をブリッジする者として、より高い技術的素養をつけるべくAI企業にて日々精進しております。前者としては日本人工知能学会、多様性包摂委員会での活動や、各種学会・省庁での講演にてITに限らずSTEM全体での女子推進を掲げております。

<活動報告サイト> <https://twitter.com/AsumiWaffle>



能條 桃子 (のうじょう ももこ)
一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN
FIFTYS PROJECT
[代表]
<https://fiftysproject.com>

▶ プロフィール

2019年、若者の投票率が80%を超えるデンマークに留学し、若い世代の政治参加を促進するNO YOUTH NO JAPANを設立。2022年、政治分野のジェンダーギャップ解消を目指し20代・30代の地方選挙への立候補を呼びかけ一緒に支援するムーブメントFIFTYS PROJECTを行う一般社団法人NewSceneを設立。

▶ 活動支援金の活用状況について

2022年、政治分野のジェンダーギャップ解消を目指し20代・30代の地方選挙への立候補を呼びかけ一緒に支援するムーブメントFIFTYS PROJECTを行う一般社団法人NewSceneを設立しました。2023年4月統一地方選挙では29名の立候補、24名の当選を後押しすることができました。大きな資金調達として、活動継続のためにクラウドファンディングを2回実施し、計1415人から約1650万円を支援いただきました。この資金を元手に、継続的な活動を展開していきたいと考えていますが、この実施の土台づくりに女性リーダー支援基金の支援金はとても助かりました。

また、2023年9月に1ヶ月間ノルウェー、デンマークに視察に行くことが叶いました。現地の若い世代の政治参加や社会運動について学ぶことができたので、今後の活動に活かしていきます。特に、同年代のアクティビストたちとのつながりが多くできたので、今後交流しつつ、手法など学び合いをしていきます。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

女性リーダー支援基金を受賞させていただいてから2年が経ち、FIFTYS PROJECTの立ち上げから初めての統一地方選挙を経験しました。若年層ほど男女平等が当たり前の意識として持っている人が多いし、関心も高い。なのに、地方議員の年代別男女比率を見れば、20代・30代の女性比率は2割以下と他の世代と比べて大きな変化は見られない。世代交代による変化が期待できないなら、自分たちでつくっていくしかない。壁はまだ分厚く、課題も山積ですが、「私たちの手で代表を送り出すことができる」という確かな実感を持ちながら、仲間づくりができています。

また、2023年に「立候補年齢引き下げプロジェクト」という被選挙権年齢引き下げを目指す公共訴訟をはじめました。立候補するという選択肢を持てるようにするため、こちらも引き続き頑張っていきます。

<活動報告サイト> <https://fiftysproject.com>



濱田 真里 (はまだ まり)
Stand by Women [代表]
<https://standbywomen.mystrikingly.com/>

▶ プロフィール

専門は政治分野におけるハラスメント。2021年にStand by Womenを設立し、女性議員・候補者のサポート活動を実施。2022年に子育て中の女性の立候補を支援する「こそだて選挙ハック!プロジェクト」を始動。2023年に日本初の議員向け相談窓口「女性議員のハラスメント相談センター」を設立。

▶ 活動支援金の活用状況について

支援金は、主に3つのことに利用しています。1つ目が候補者や議員の方に対する無償での相談体制の実施です。現在10人の議員に対する複数人のチーム体制による長期サポート(選挙期間外も継続してサポート)を行っています。また、それ以外にも1名の候補者・議員に対する個別サポートを濱田が行っています。約30名のメンバーでこれらのサポートを行っていますが、すべてのサポートは無償で行われています。2つ目が今年から提供をはじめた『選挙ボランティアのしおり』の必要経費です。こちらは約半年かけて作成し、サイトから無料で利用できるようになっています。3つ目が研究調査にかかる必要経費としての利用です。統一地方選挙に落選した方々へのヒアリング調査だけでなく、今後は男性議員向けのハラスメント等のヒアリング調査も実施予定です。これらの調査にかかる必要経費や、調査に必要な書籍等の購入にあてています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

2023年は統一地方選挙があり、それに向けて様々な支援を行いました。現場でのお手伝いやSNS戦略、ハラスメント相談対応などを行うとともに、選挙に必要なボランティアという存在にもジェンダーギャップがあることに注目し、お手伝いしたいと思える人を増やすために『選挙ボランティアのしおり』を作成しました。内容は、具体的にできるお手伝い方法から公職選挙法の基本的な知識まで、簡単にわかりやすく説明し、無料でサイト上からダウンロードが可能です。2023年統一地方選挙までの間に3000枚以上配布し、現在もサイト上での提供を続け、2023年10月時点で6000枚以上配布しました。現在は、ハラスメント相談をはじめとするチームでのサポート活動の継続と、今年の統一地方選挙で落選した子育て中の女性へのヒアリング調査を行い、当選するために必要なものについて明らかにしたいと考えています。

<活動報告サイト> <https://standbywomen.mystrikingly.com/guidebook>



吉岡 マコ (よしおか まこ)

NPO法人
シングルマザーズシスターフッド
[代表理事]

<https://www.singlemomssisterhood.org/>

▶ プロフィール

東京大学文学部で身体論・同大学院にて運動生理学を学ぶ。出産をきっかけに、産後の心身の過酷さを体験し、1998年9月産後ケア教室を開始、2008年NPO法人マドレボニータを設立し産後ケアの普及や啓発に尽力した。2020年に代表を退きシングルマザー支援を開始。ひとり親女性のセルフケアや自立支援、リーダーシップ開発など活動の幅を広げている。

▶ 活動支援金の活用状況について

女性リーダー支援基金を活用させていただき、「シングルマザーのセルフケア講座」の次のステップにあたる「グループリフレクション」を導入しました。2週間に1回60分、3～4人のグループで集まり、記入してきた振り返りシートにそって、2週間の振り返りと、次の2週間で頑張りたいことの宣言をし、仲間からフィードバックを得ます。セルフケア講座は、受け身でも参加できる場ですが、グループリフレクションは自らが進行役を引き受けたり、仲間へフィードバックしたり積極的な姿勢が求められる場です。セルフケア講座で心身をケアする習慣を身につけた後は、その人らしさを発揮できる場として、非常にパワフルなピアサポートの場となっています。これまで3期生が終了し、60名が参加しました。来年1月からは4期生がスタートします。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

昨年の報告書では「セルフケア→学び→貢献というステップを踏むことで、困難を抱えるシングルマザーが、逆境を糧に、仲間と励まし合いながら人生を切り開いていくことに伴走していくという我々の支援のあり方をさらに実践していきたい」と記載しました。グループリフレクションというプログラムでメンターという立場を引き受けてくれる人が出てきてくれたり、ファンドレイジングのキャンペーンに関わってくれる人が出てきてくれたり、「受益者」だったシングルマザーが「担い手」となりリーダーシップを発揮しているのを嬉しく思っています。その結果、職場でも活躍が認められて収入が上がったりとシングルマザーの生活にも好影響が出ています。女性がリーダーシップを発揮することが、カッコイイことであり、楽しいことだという機運を育てていきたいなと思っています。